

農地中間管理事業をご利用いただいた方の声

稲作・野菜
農業法人
松山市

アグリティー実農里代表
田村 浩文さん (58 才)

問 農地バンク(農地中間管理機構)を活用したきっかけは。

答 もととは35㌔ほどの規模でしたが、栽培作物を増やすため耕作面積を広げたいと考え、市役所に相談した際に農地バンクを紹介されました。4年ほど前から土地の借り受けを毎年進めていき、2022年11月に株式会社アグリティー実農里(みのり)を設立。現在は計4・1㌔で、コメを中心にトウモロコシやブロッコリーなども手がけています。

問 農地バンクを活用して良かった点は。

答 農地集約の取り組みを知った地域の農家さんから「耕作できなくなったら後は頼まい」と声がかかるようになりました。借りる側はまとまった土地を借りられ、煩雑な契約事務や賃料支払い手続きなども楽になります。一方、貸す側にも、固定資産税の軽減措置など税制面での優遇や協力金などのメリットがあり、双方にとってやりやすい仕組みだと思います。



Iターン
ミカン農家
八幡浜市

落合 司さん (36 才)

問 Iターン就農のきっかけは。

答 祖父母も農家でいつかは農業をしたいと思っていました。ミカンが好きで、就農支援制度も充実していたことからJAにしうわの研修生となり、2021年に就農しました。

問 農地バンク(農地中間管理機構)をどうやって知りましたか。

答 就農の際にJAにしうわが窓口となり、農地バンクを通じて、高齢化などで耕作が難しくなった土地をあっせんしてくれました。

問 農地バンクを活用して良かったことは。

答 移住して日も浅い私個人では地主さんと直接交渉するのは難しいですが、地権者との交渉をはじめ契約事務や賃料支払いの手続きまでを機構が担ってくれています。1・3㌔から始まり、23年にはさらに0・1㌔増やしました。今後も農地を広げていきたいです。耕作放棄地を少しでも減らすことで地域に恩返しができればと思っています。



中平ファーム代表
中平 悠太さん (34 才)

問 農地バンク(農地中間管理機構)をどうやって知りましたか。

答 元々兼業農家だった父が、農地バンクを通じて耕作が難しくなった周辺の土地を借り受け、作付けしていたので認知はしていました。2017年に父は引退。その後を引き継ぎ、鬼北町などのサポートを受けながら農地バンクを利用した農地集積、拡大を進め、20年に「中平ファーム合同会社」を設立しました。

問 農地バンクを活用して良かったことは。

答 作付面積15㌥のうち農地バンクを通じて借りている農地は約10㌥。地権者は40人に上っています。個人対個人では賃料の支払い手続きだけでも大変ですが、支払いや契約手続きも機構がやってくれるので非常に楽です。機構は県や市町などと連携しており、貸す側も安心感があると思います。地域では高齢化でリタイアする農家や米価下落で稲作を辞める人が増えていますが、何とか耕作放棄地化を防ぎたいです。そのための受け皿になっていかねばと思っています。

